

【証券コード：6728】

決算説明会資料

2016年度（2016年7月～2017年6月）

2017年8月10日
株式会社 アルバック

◆将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるFPD（フラット・パネル・ディスプレイ）・半導体・電子部品などの業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品・原材料などの市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

◆本資料における表示方法について

（特段の記載がない限り、数値はすべて連結ベースです）

数値： 単位未満四捨五入

比率： 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入

会計期間の表現：

2Q（累計）： 第2四半期連結累計期間

2Q： 第2四半期連結会計期間

2016年度連結業績概要

□ 当初予想を上回る実績を計上（2期連続最高益更新）

□ 受注高 2,355億円（当初予想比 +27%）

- スマートフォン向けOLED（有機EL）や大型TV向けLCD（液晶）への設備投資が引き続き活発、高水準で推移

□ 売上高 2,318億円（当初予想比 +19%）

- FPD・PV製造装置を中心に、当初予想比増加

□ 営業利益 295億円（当初予想比 +64%）

- 売上高増加に伴い、利益も当初予想比増加
- 各利益項目は、前年度に引き続き最高益を更新

□ 期末配当金は、前回予想（5月公表）の1株当たり45円から50円に増額予定（前年度実績30円）

2016年度連結業績概要

前中期経営計画

新中期経営計画

2017年度
連結業績予想

- 受注高は前年同期比5%増、半導体・電子部品製造装置やコンポーネントが増加
- 売上高は同21%増、FPD・PV製造装置、半導体・電子部品製造装置、コンポーネントが増加
- 営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、いずれも過去最高益を更新

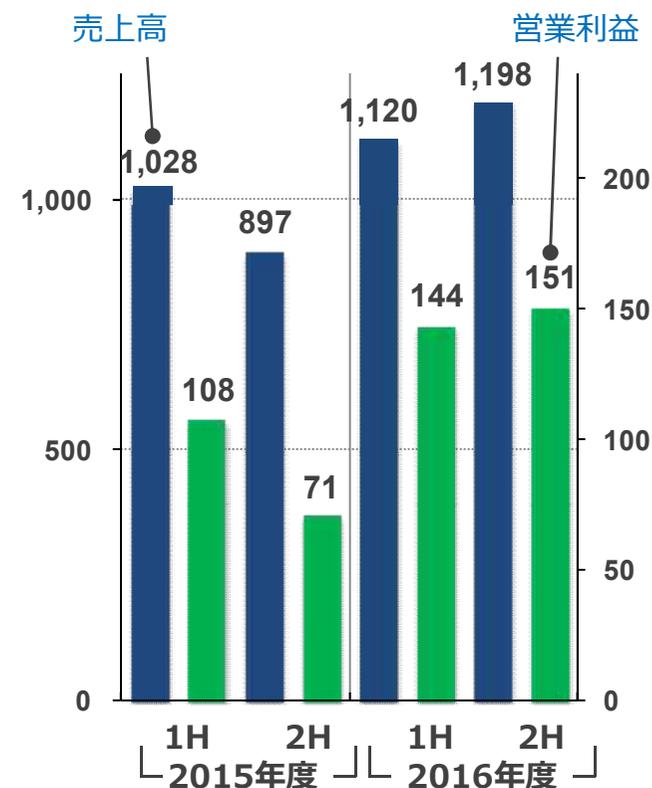
【単位：億円】

	2015年度	2016年度		2016年度	
	通期実績	当初予想*1	前回修正予想*2	実績	前年同期比増減率
受注高	2,236	1,850	2,300	2,355	119 5.3%
期末受注残高	1,013	-	-	1,063	- -
売上高	1,924	1,940	2,235	2,318	394 20.5%
営業利益	179	180	285	295	116 65.0%
率	9.3%	9.3%	12.8%	12.7%	+ 3.4 pt
経常利益	184	180	285	297	113 61.7%
率	9.5%	9.3%	12.8%	12.8%	+ 3.3 pt
親会社株主に帰属する当期純利益	167	120	215	245	78 46.5%
率	8.7%	6.2%	9.6%	10.6%	+ 1.9 pt

*1：2016年8月公表値

*2：2017年5月公表値

売上高と営業利益の推移（半期毎）



2016年度連結業績概要 (利益率の推移)

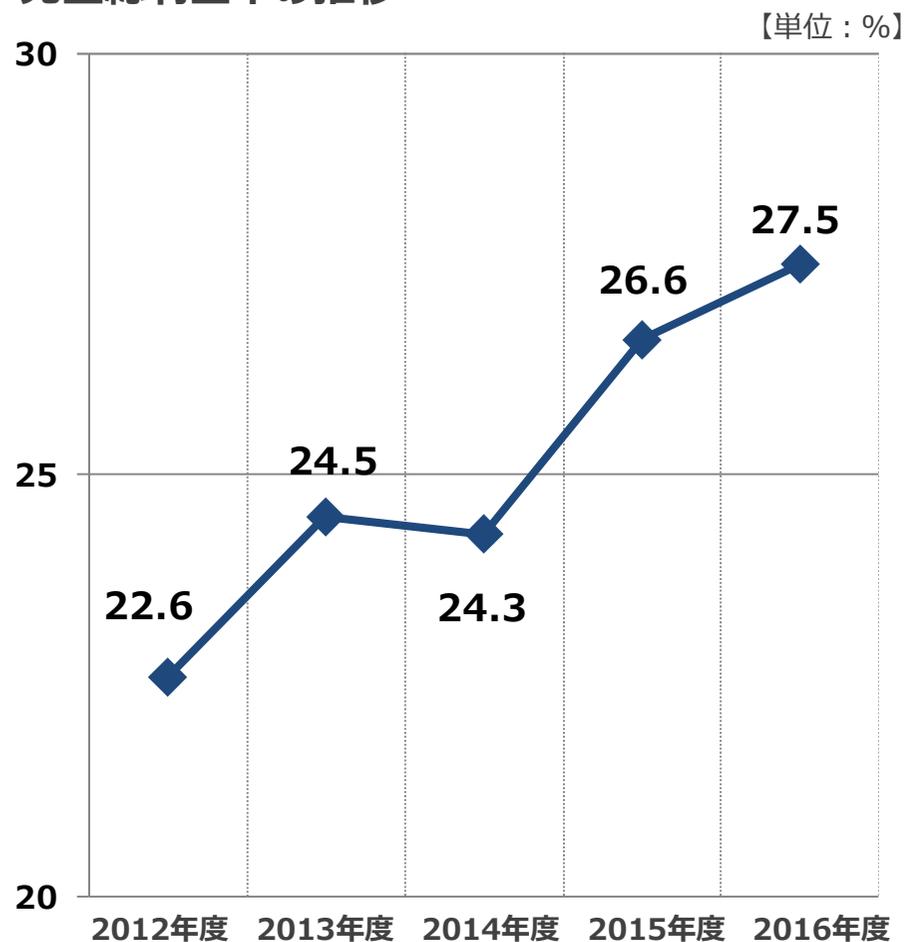
前中期経営計画

新中期経営計画

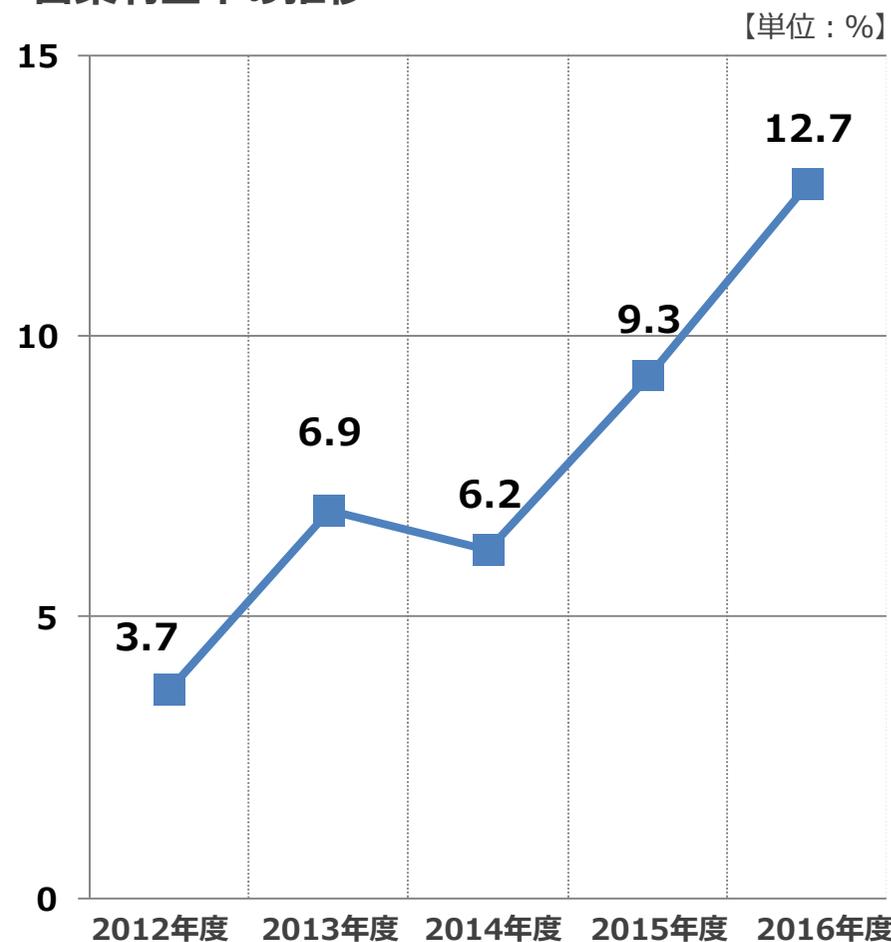
2017年度
連結業績予想

- 売上総利益率、営業利益率とも引き続き改善

売上総利益率の推移



営業利益率の推移



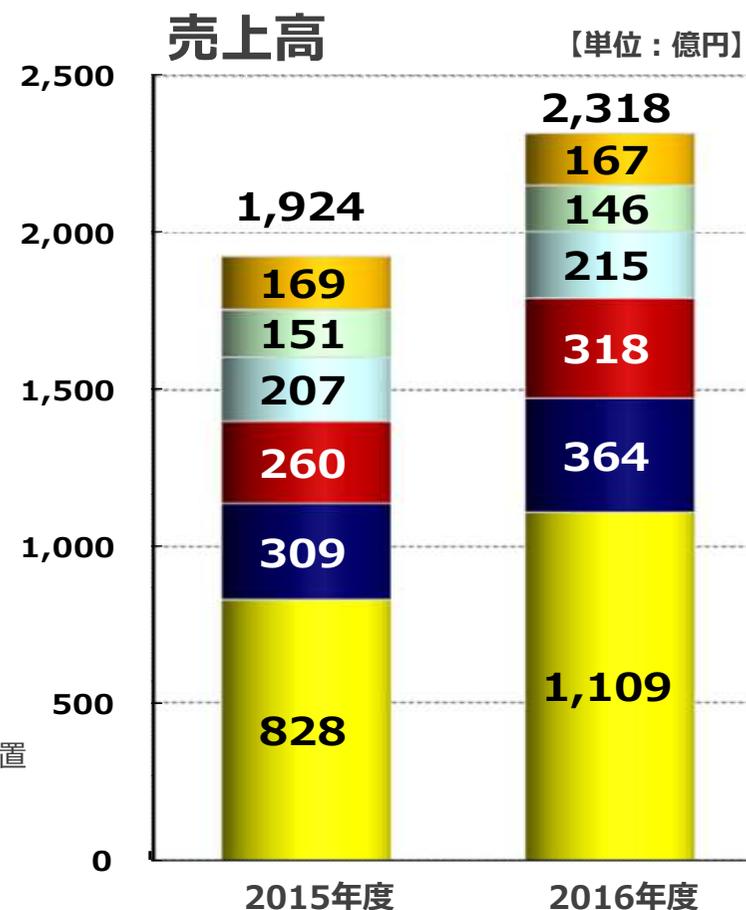
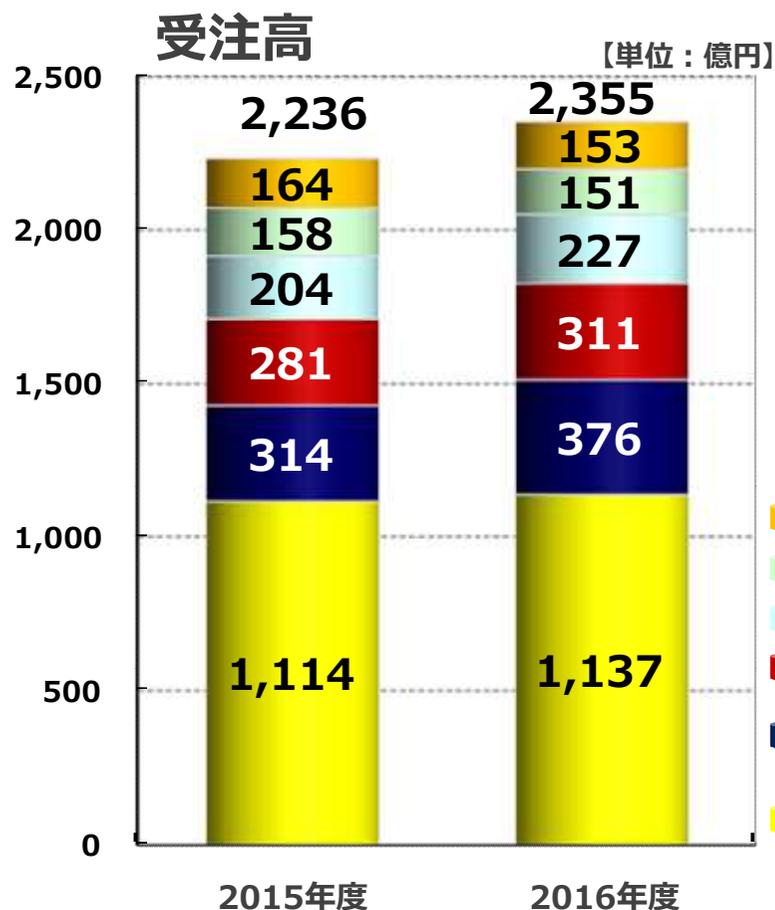
2016年度連結業績概要 (品目別受注高・売上高の実績)

前中期経営計画

新中期経営計画

2017年度
連結業績予想

- FPD・PV製造装置：OLEDや大型TV向けLCDを中心に高水準で推移
- 半導体・電子部品製造装置：メモリ（NAND・DRAM）向け投資が拡大
- コンポーネント：OLED向けクライオポンプ等が増加



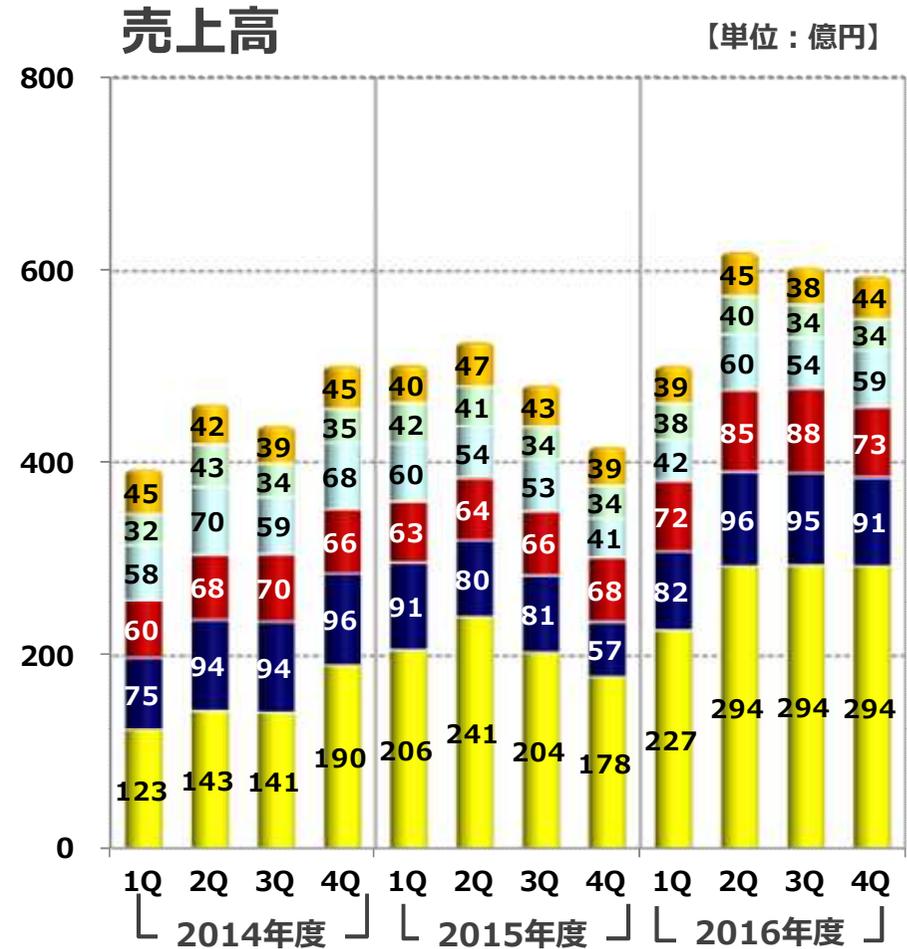
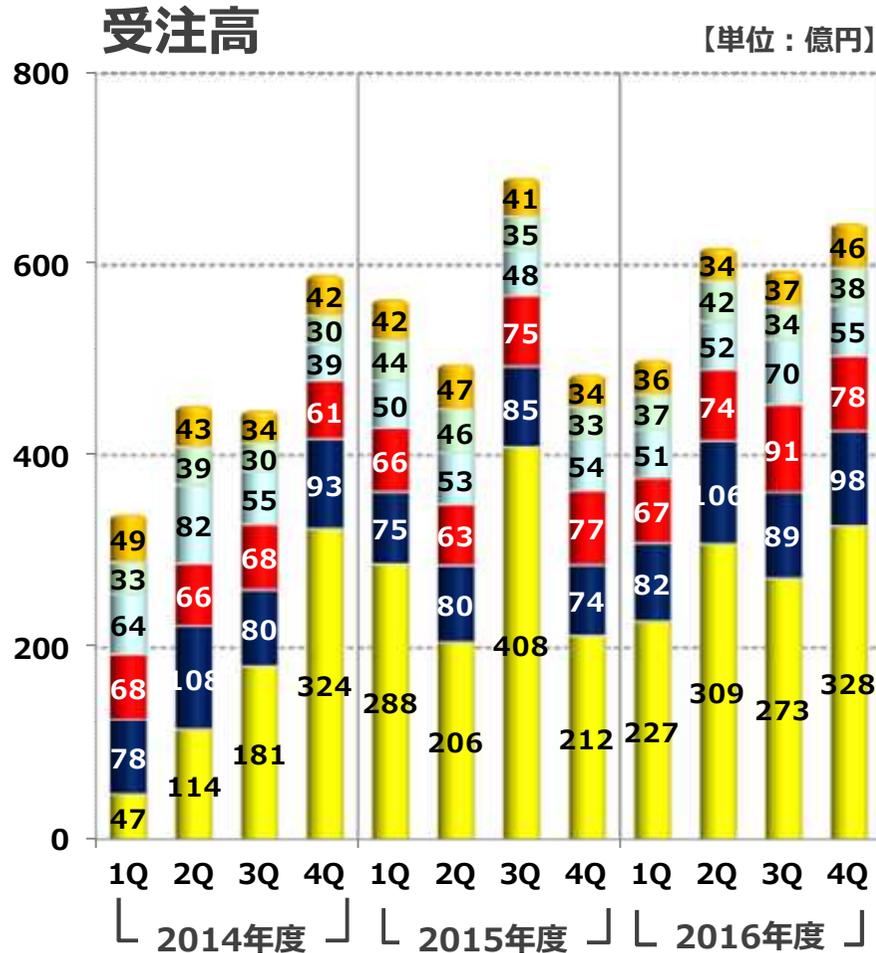
2016年度連結業績概要 (品目別受注高・売上高四半期推移)

前中期経営計画

新中期経営計画

2017年度
連結業績予想

・ 受注高、売上高とも、引き続き高水準で推移



2016年度連結業績概要 (連結貸借対照表)

前中期経営計画

新中期経営計画

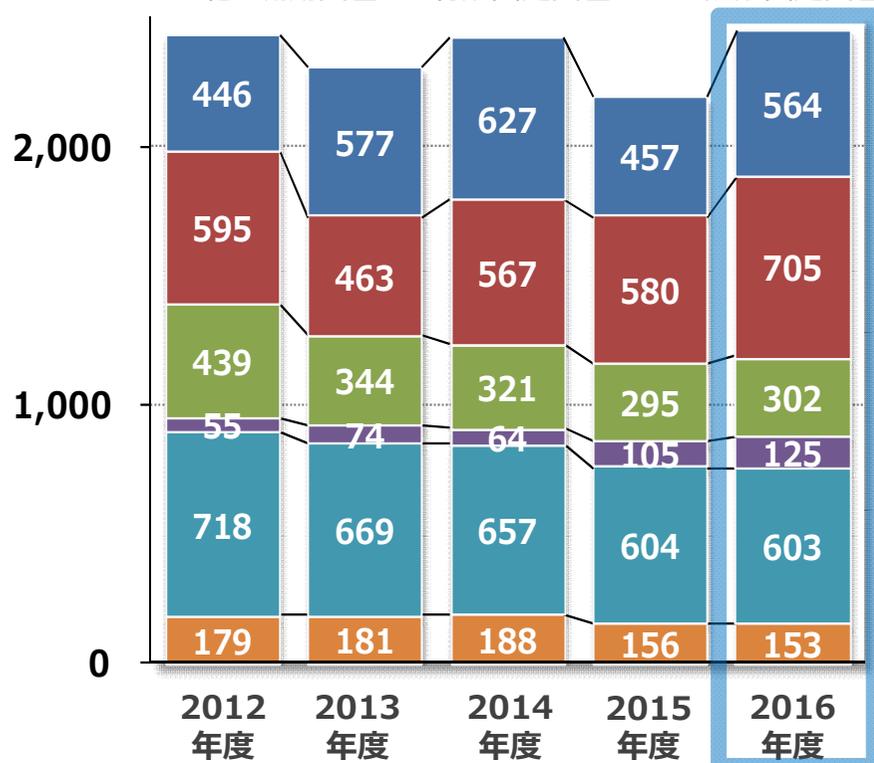
2017年度
連結業績予想

- 売上増加に伴い、前年度末比で受取手形・売掛金が126億円、支払手形・買掛金が135億円、各々増加。一方で、有利子負債は200億円減少
- 純資産は269億円増加

資産

【単位：億円】

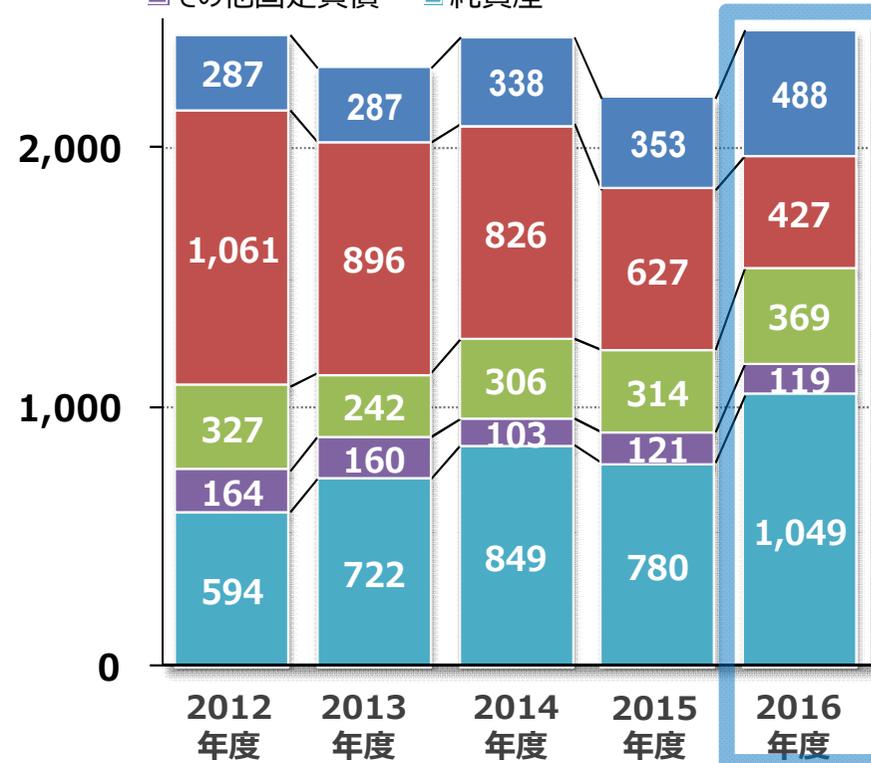
■ 現金・預金 ■ 受取手形・売掛金 ■ 棚卸資産
■ その他の流動資産 ■ 有形固定資産 ■ 無形固定資産他



負債・純資産

【単位：億円】

■ 支払手形・買掛金 ■ 有利子負債 ■ その他流動負債
■ その他固定負債 ■ 純資産



2016年度連結業績概要 (キャッシュ・フローと有利子負債の実績)

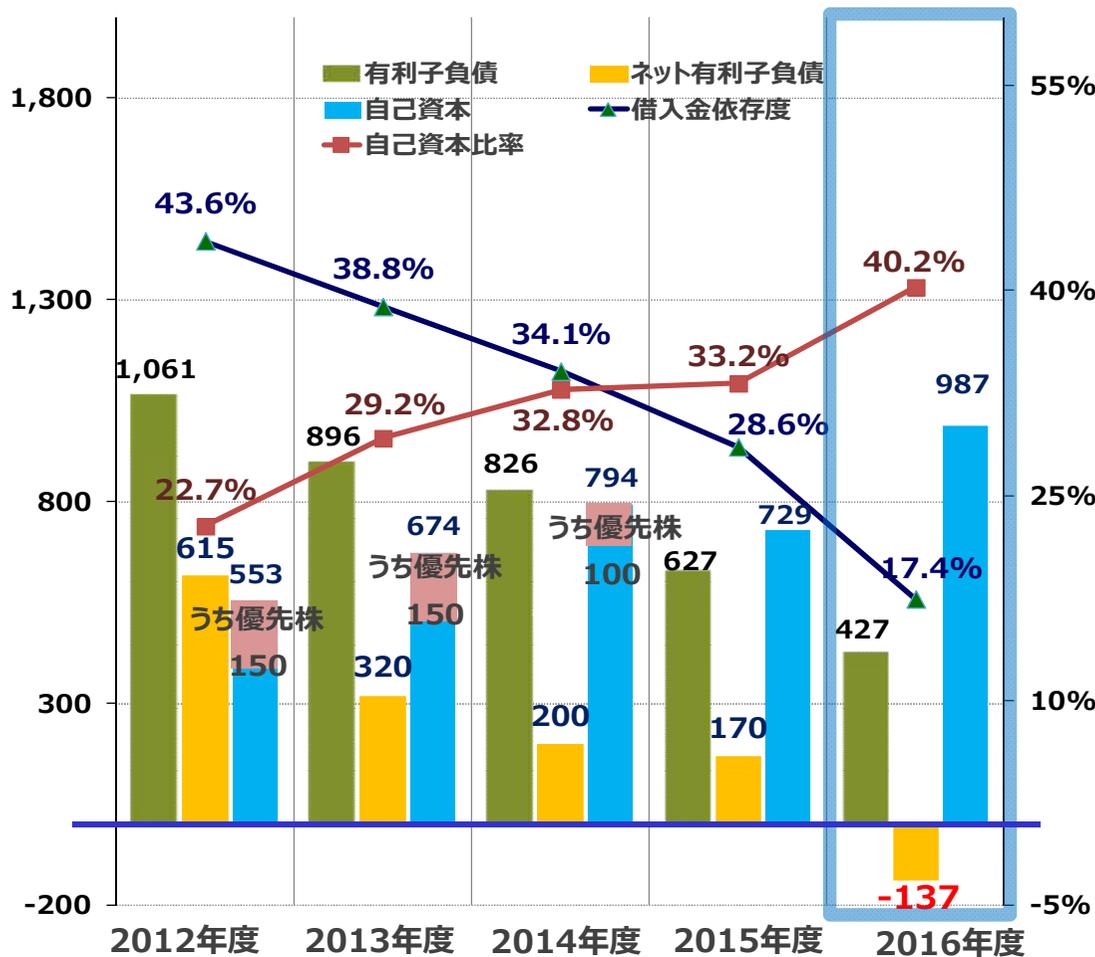
前中期経営計画

新中期経営計画

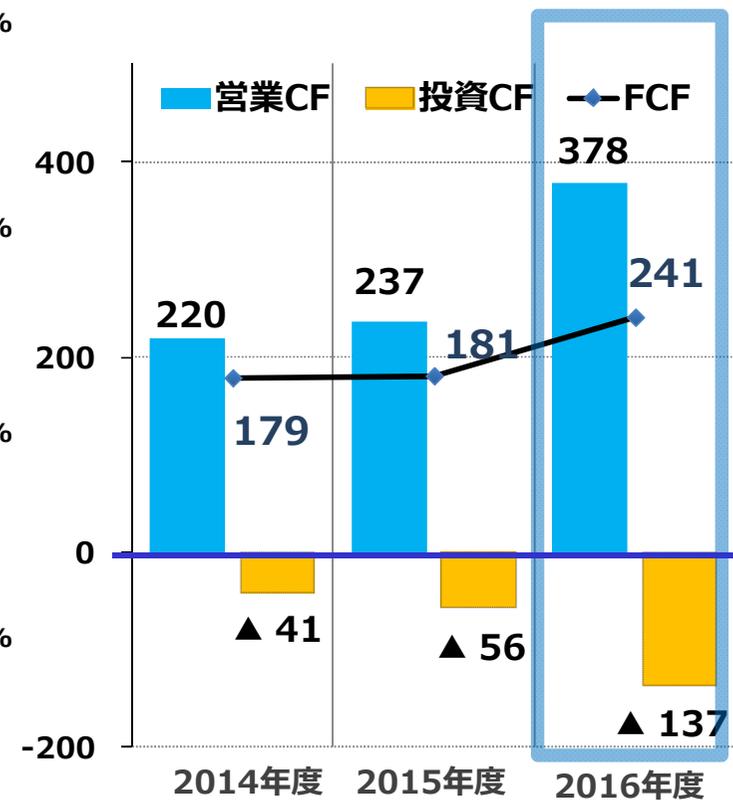
2017年度
連結業績予想

- 自己資本比率は40.2%に上昇、借入金依存度は17.4%に低下
- 営業CFは378億円、FCFは241億円、ネット有利子負債は137億円の現預金超過

【単位：億円】



【単位：億円】



2016年度連結業績概要 (期末配当)

前中期経営計画

新中期経営計画

2017年度
連結業績予想

- 配当金は、財務基盤の状況や各年度の連結業績及び配当性向等を総合的に勘案し、実施する方針

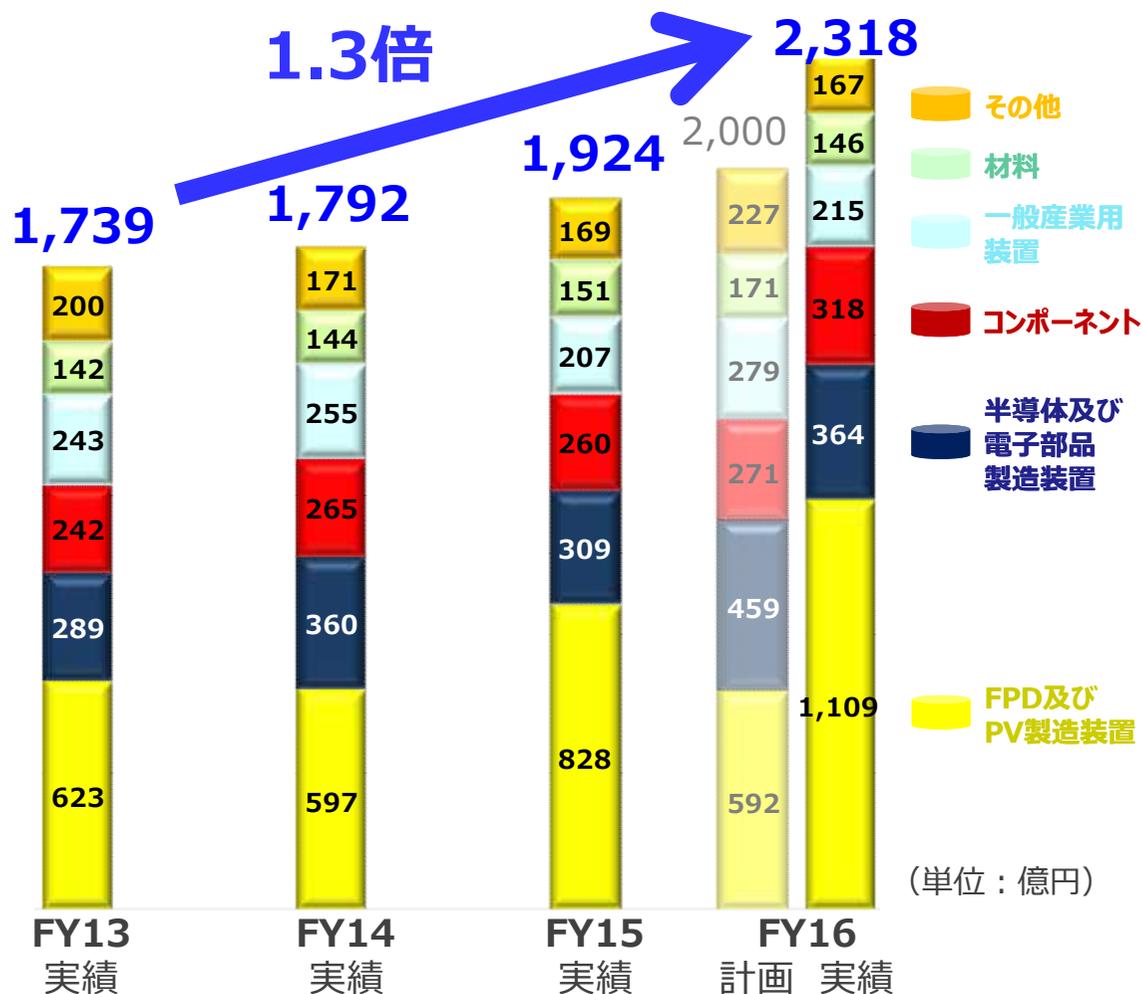
→ 当期末の配当を前回予想の1株当たり45円から50円に増額予定
(9月28日開催の第113回定時株主総会に付議予定)

	2015年度 実績	2016年度 前回予想 (5月公表)	2016年度 予定	(2015年度比)
1株当たり 配当金	30円	45円	50円	20円増加

前中期経営計画

中期経営計画
(2014年度～2016年度)
振り返り

・売上高は目標を達成（各年度とも計画を上回る実績）



FPD事業

- 大型LCDやOLED向け設備投資が計画策定時想定を大きく上回り、連結売上高を牽引

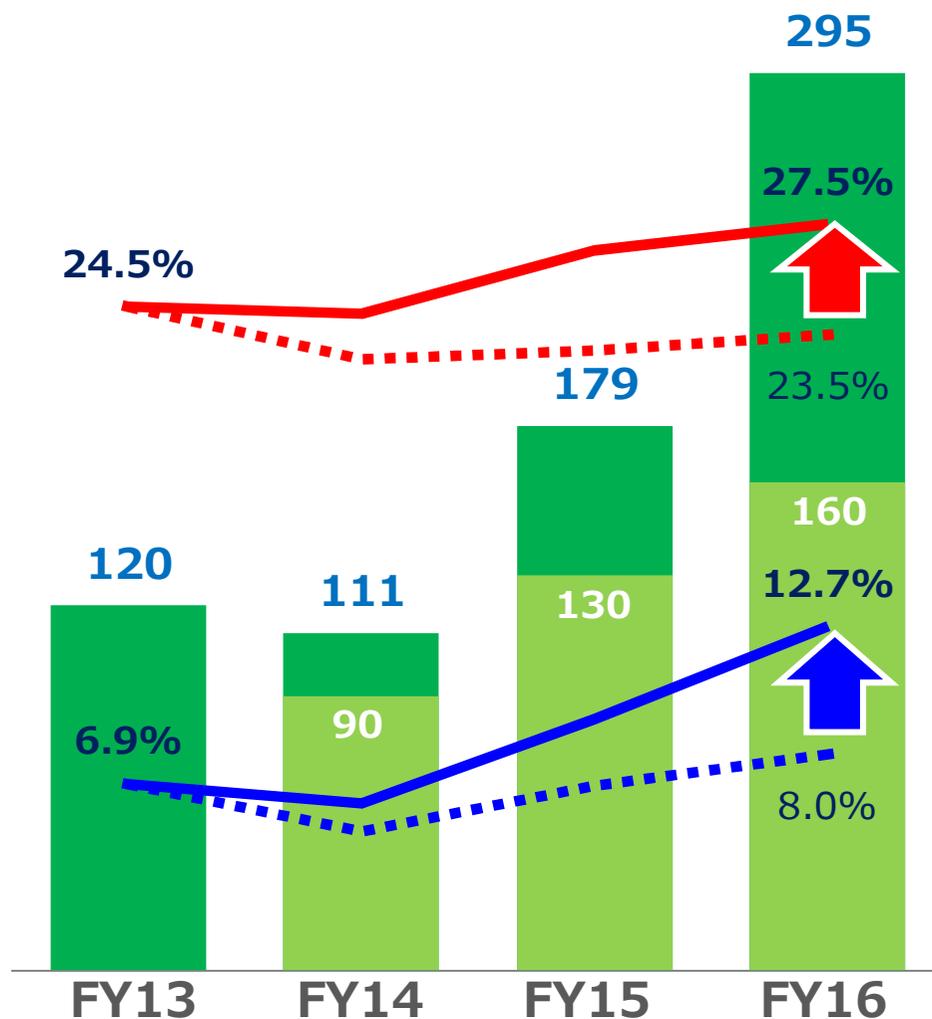
半導体・電子機器事業

- 計画には及ばないものの、増加傾向

コンポーネント事業

- OLED向けクライオポンプ需要の増加等で計画を上回る実績

・営業利益は2期連続最高益を更新



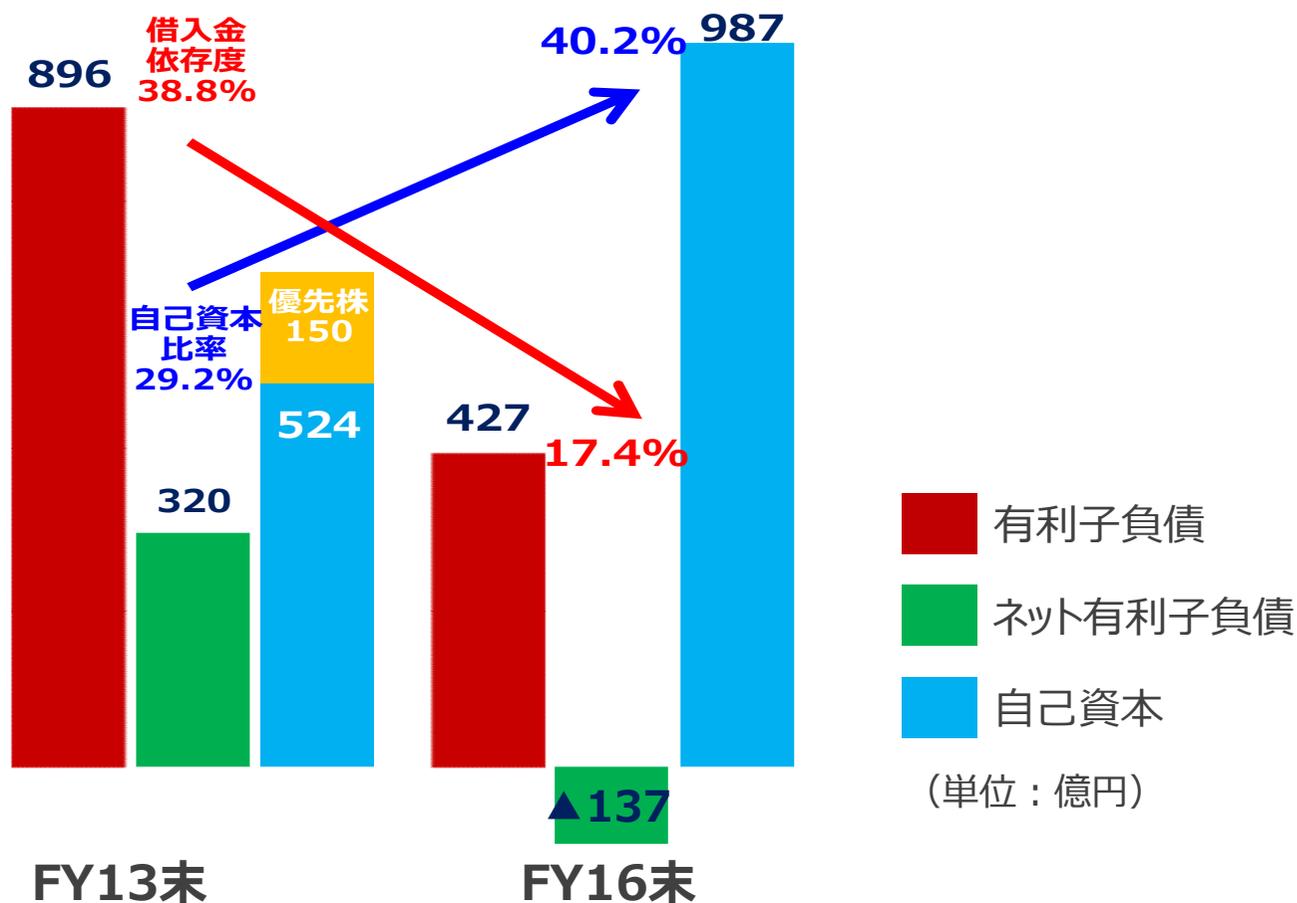
利益体質強化に向けた取組み

- ・ 売上高増加
- ・ フロントローディングと継続的なコストダウン
- ・ 固定費・採算管理徹底

- 売上総利益率
(実線：実績／破線：計画)
- 営業利益率
(実線：実績／破線：計画)
- 営業利益 (実績)
- 営業利益 (計画)

計画：2014年度策定の中期経営計画

- 利益による自己資本の積上げ、資産のスリム化等により、自己資本比率は大幅改善
- 有利子負債・借入金依存度は大幅改善、ネット有利子負債は現預金超過



新中期経営計画

中期経営計画
(2017年度～2019年度)
概要

2014

2015

2016

2017

2018

2019

前中期経営計画

意識改革による利益体質の強化

- 収益基盤を強化し、**世界で唯一の真空総合メーカー**として、多様な技術・製品ラインナップで売上増加
- **継続的な研究開発**等により、LCDの大型化やOLEDへのシフト等の市場変化に適応、FPD事業拡大
- アジアを中心に**グローバルな製品開発・生産体制を構築**、お客様のニーズにより早く的確に応える仕組みづくり推進

新中期経営計画

持続的成長と企業価値向上に向けた
取組みを加速

• 技術革新の大きな転換点の到来

- 大型TV向けLCDや、スマートフォン等向けOLEDパネルの需要増加
- スマート社会を見据えた小型・高効率・大容量化技術の要求拡大

アルバックにとって
新たな価値創造のチャンス

目指す姿

- 真空技術の総合利用と装置・材料・成膜加工・分析・サービスのシナジー効果の最大化やグローバルなビジネスパートナーとの連携による高い収益性の企業経営
- 次の飛躍のための人づくり、果敢に挑戦する企業文化

経営基盤

人財の育成

グループ連携の深化

情報基盤の整備

財務体質の強化

重点戦略

事業成長の推進

- FPD事業の盤石化
- 半導体・電子機器事業の強化
- グローバル展開

価値創造力の向上

- マーケティング強化と独創的な技術・商品開発
- グローバルな調達・生産体制強化とコストダウン

2019年度目標

売上高2,500億円

営業利益350億円

営業利益率14%

• 経営基盤の強化

人財の育成

事業推進力アップ

- 次世代経営幹部の育成
- グローバルな人財登用・育成

グループ連携の深化

ものづくり力アップ

- グローバルな開発・調達・生産体制の強化とコストダウン
- 研究開発投資(※)の拡大（3年間で500億円程度）
- グローバル市場・技術戦略の加速

(※) 研究開発用設備投資額＋研究開発費

情報基盤の整備

状況判断力アップ

- ITの活用による情報収集・管理の効率向上

財務体質の強化

成長投資力アップ

- 自己資本比率改善等の財務体質の更なる強化

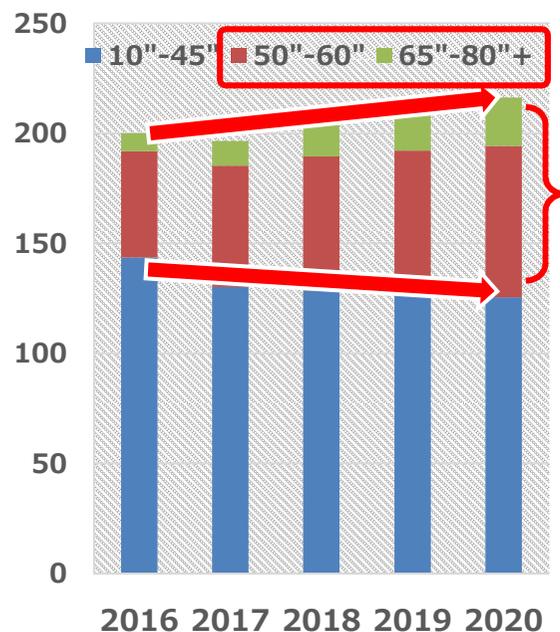
・ LCDでは、大型TVが市場の伸びを牽引する見通し

50インチ以上の大型TV
(特に65インチ以上)
が市場の伸びを牽引

- ・ 大型パネルの効率的な生産には大型基板が必要
- ・ 特に65インチ以上のパネルの場合、超大型 (G10.5) の生産性が高いため、生産設備増強の動きが活発化

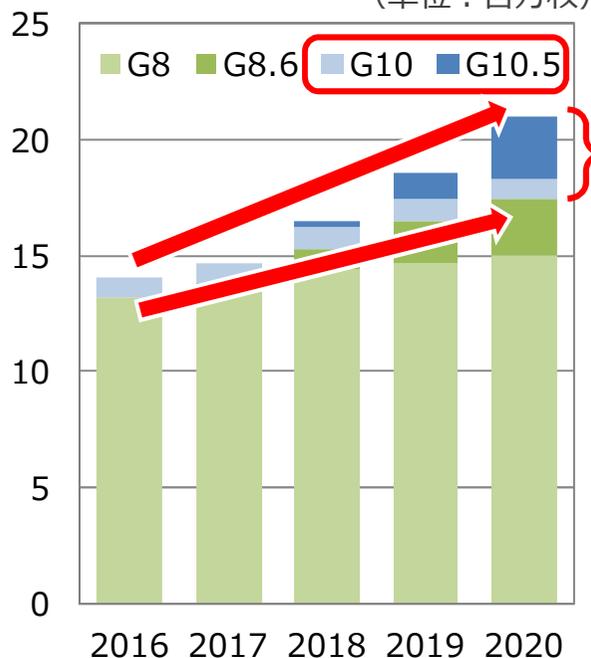
薄型TV サイズ別需要予測

(単位：百万枚)



大型基板 ガラスサイズ別生産能力

(単位：百万枚)



1枚当たり生産性

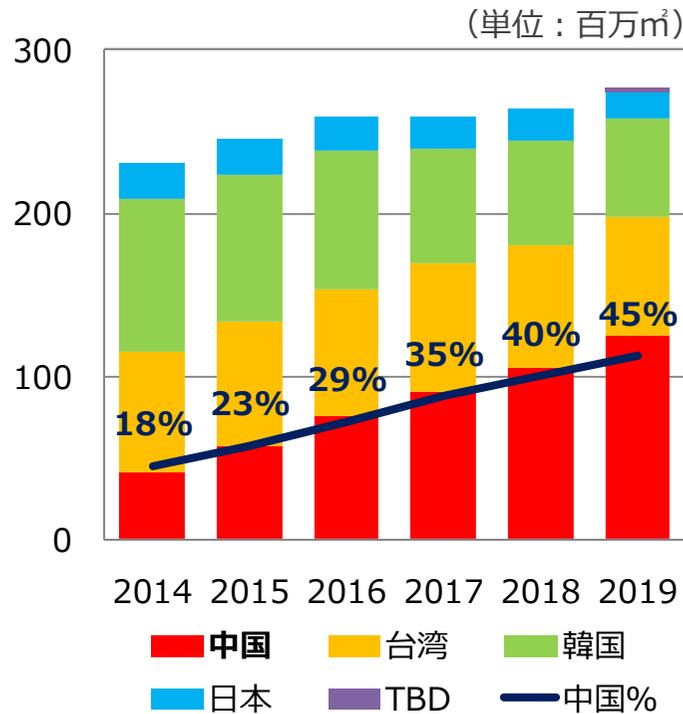
(枚数及びパネル使用効率)

	G8.5 Glass (2200x2500)	G10.5 Glass (2940x3370)
65"	 3面・62%	 8面・94%
75"	 2面・55%	 6面・94%

(IHS Markit資料から作成)

- 中国では、国産化政策・政府支援により
大型基板の生産設備増強（G10.5）が活発化
⇒2019年には生産能力が全世界の45%に達する見通し

LCD 国別生産能力



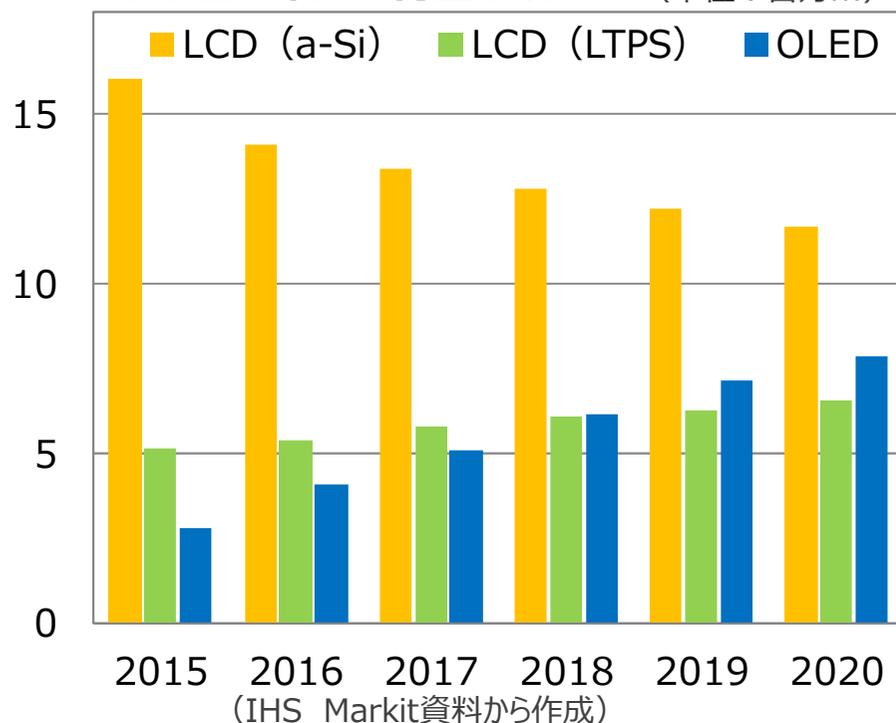
(IHS Markit資料から作成)

アルバックの強み

- ① 大型スパッタリング装置での高い技術力と実績
 - 生産性に優れたスパッタカソードを提供
 - インライン式固定成膜により生産性と信頼性を両立
 - 優れたスペース効率（工場の有効活用）
- ② 中国市場での優位性
 - カスタマーサポート体制（12拠点）
 - 現地生産体制（大型クリーン工場、高度な製造技術・品質管理体制、人材育成）とサプライチェーンの育成・構築
 - 中国向け大型基板（G10.5）製造装置第1号機を2017年出荷済

- OLED投資は、引き続き旺盛
- 中小型パネルはOLEDとLCD(LTPS)が主流となる見通し
(LCD(a-Si)は減少)
- OLEDについては、フレキシブル性を活かしたスマートウォッチやフォルダブル、VR (バーチャルリアリティ)、車載用ディスプレイ等、幅広い用途での伸びに期待

中小型パネル出荷量予測 (単位：百万㎡)



・「スマート社会化」の潮流をビジネスチャンスに

スマート社会の到来

社会の
変化

情報社会の進化
→IoTやAIなどによるスマート化

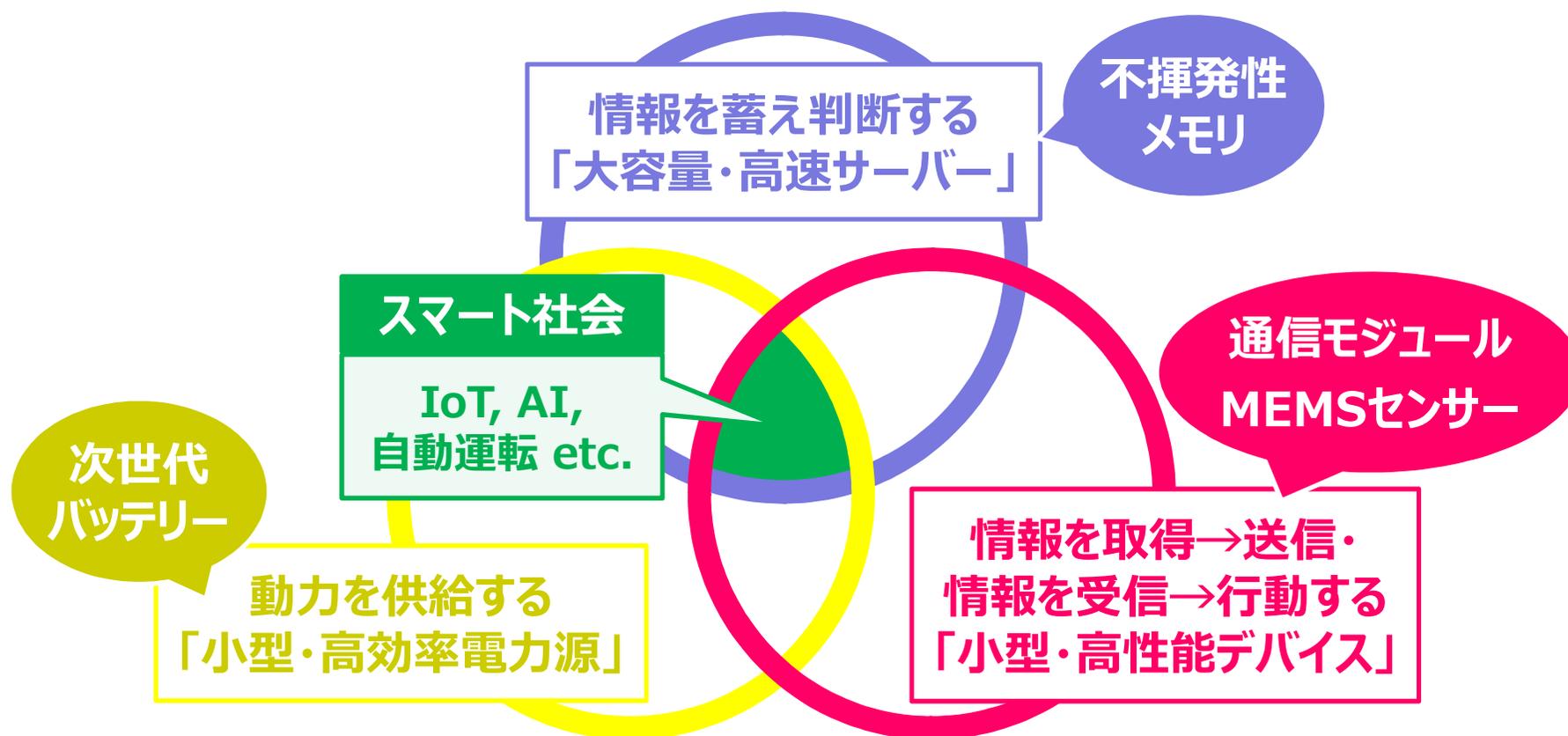
産業の
変化

すべての産業（農業、衣料、食品など）が
スマート化（エレクトロニクス化）

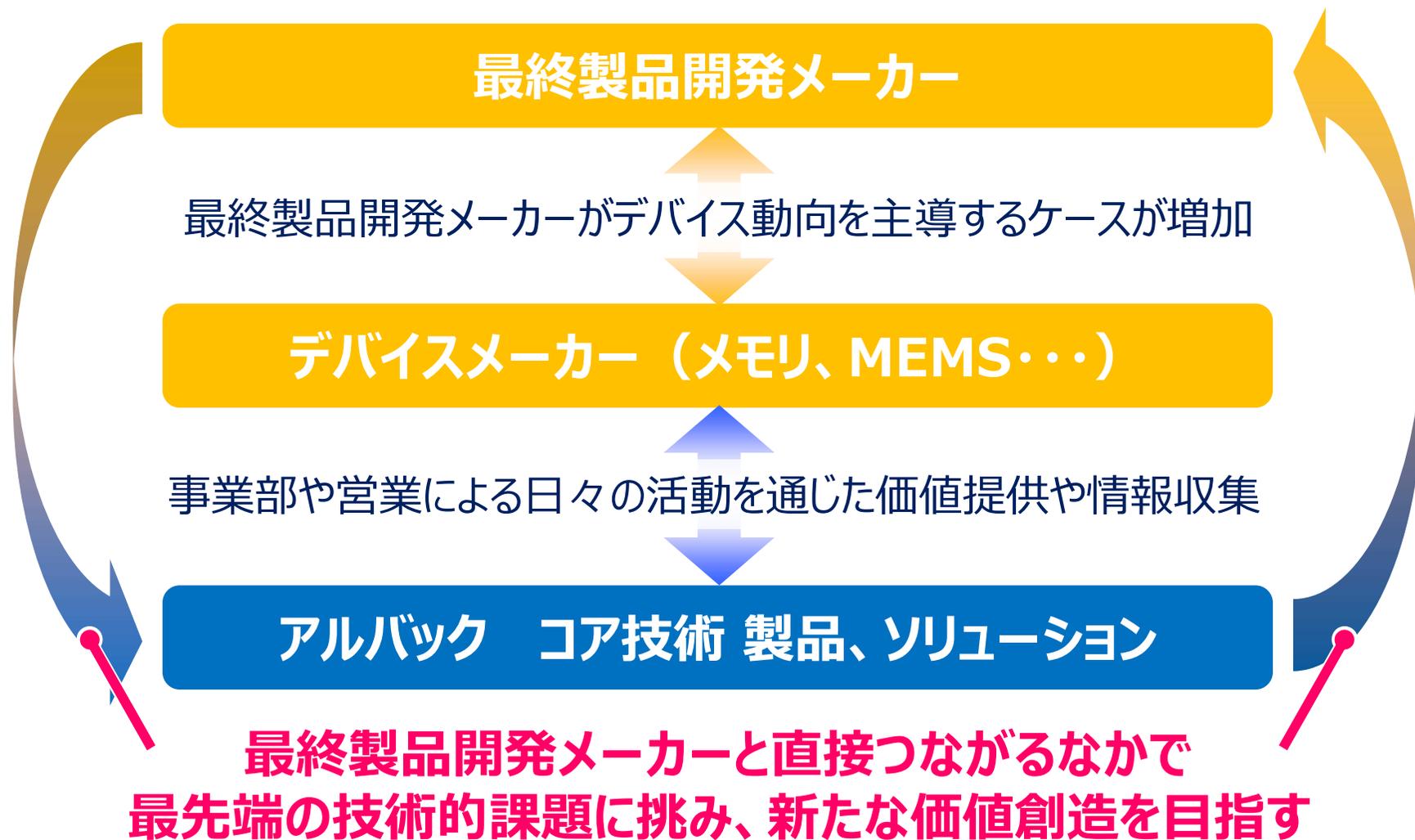
これらの変化に対応するためには
高度で多様なテクノロジーのコラボレーションが必要

⇒キーテクノロジーを有するアルバックに大きなチャンス！

スマート社会実現のためのテクノロジー



・市場・技術戦略として中長期的視野に立った活動を開始

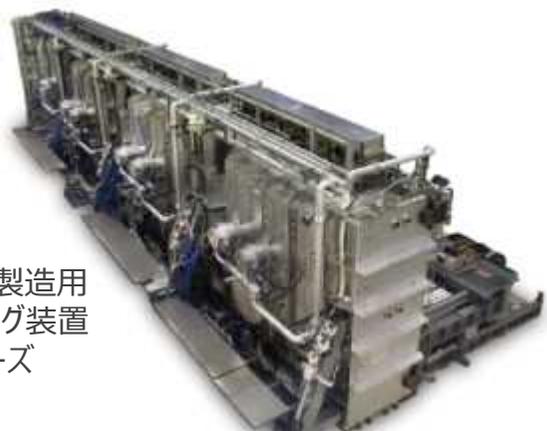


FPD事業：

旺盛な需要に着実に対応

- LCDについては、スパッタリング装置の更なる競争力強化を通じ、とりわけ**大型TV向けで圧倒的なシェアを維持**、加えて豊富な納入実績を活かし、アメリカ等への展開にも対応
- OLEDについては、量産化の早期実現を通じ、**中国市場でのシェアNo.1の堅持とシェアアップを果たす**とともに、OLED-TV等、次世代ディスプレイに向けた開発体制を強化
- キャパシタ・太陽光発電・建材ガラス・自動車部品等については、世界のビジネスパートナーと連携し、**新市場の創出や市場の拡大につなげる**

大型LCD製造用
スパッタリング装置
SMDシリーズ



OLED製造装用
真空蒸着装置
ZELDAシリーズ



半導体・電子機器事業：

スマート化の潮流のなかで技術革新に挑戦

- 高水準の需要が続くNAND・DRAMに加え、次世代不揮発性メモリにも対応
- アルバックにとって新領域となるロジックへの参入
- 各種センサー・通信デバイス・パワーデバイス・次世代電池等の技術的課題の解決
- 中国の国産化政策に基づく生産体制強化の動きに対応
(研究機関等との連携による事業機会拡大)

半導体製造用
スパッタリング装置
ENTRON-EX



コンポーネント・材料事業等：

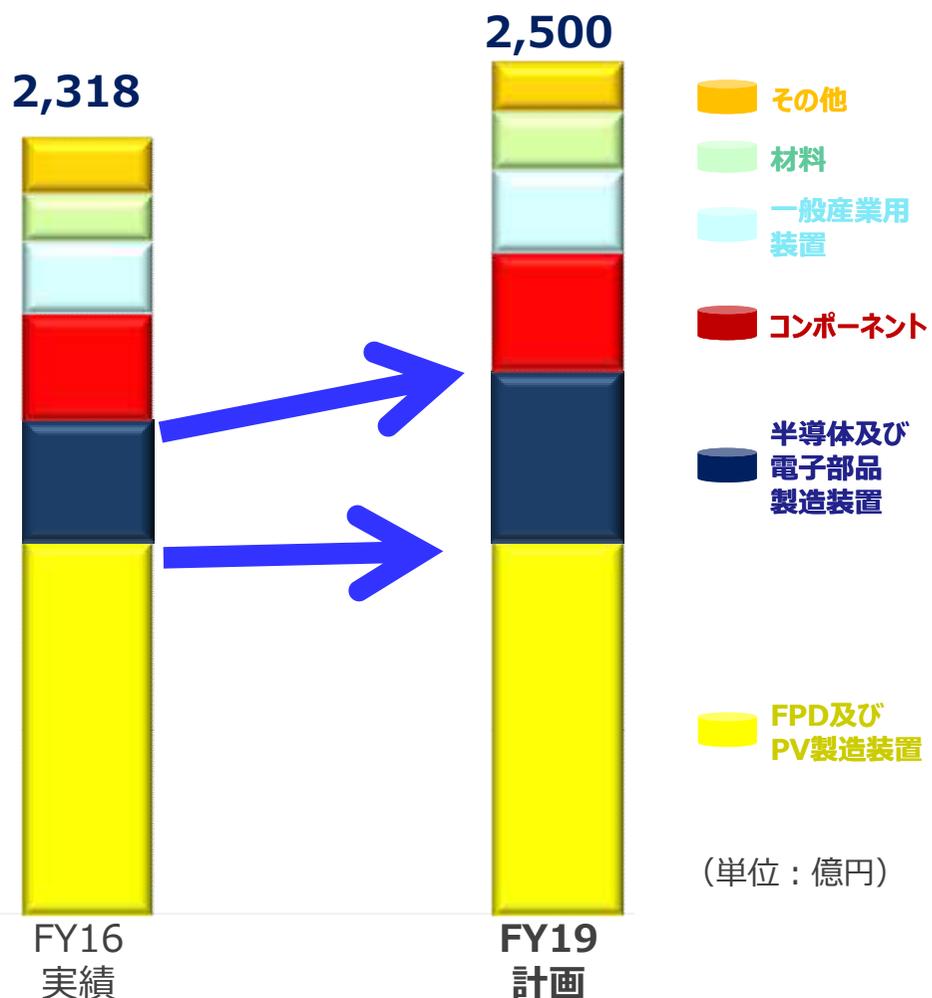
安定収益基盤としてグローバルに展開

- 改善・改良や中国等の生産拠点を活用したコストダウンによる製品競争力の向上
- 中国での装置導入にともなう需要の着実な取り込み
- 東アジア以外の地域への展開



クライオポンプ

- FPD関連の旺盛な需要に着実に対応
- 第2の柱として、半導体・電子機器事業の成長を強力に推進



FPD事業

- 引き続き年間1,000億円超の売上高を確保

半導体・電子機器事業

- 2016年度比40%増

コンポーネント事業

- 2016年度比10%増

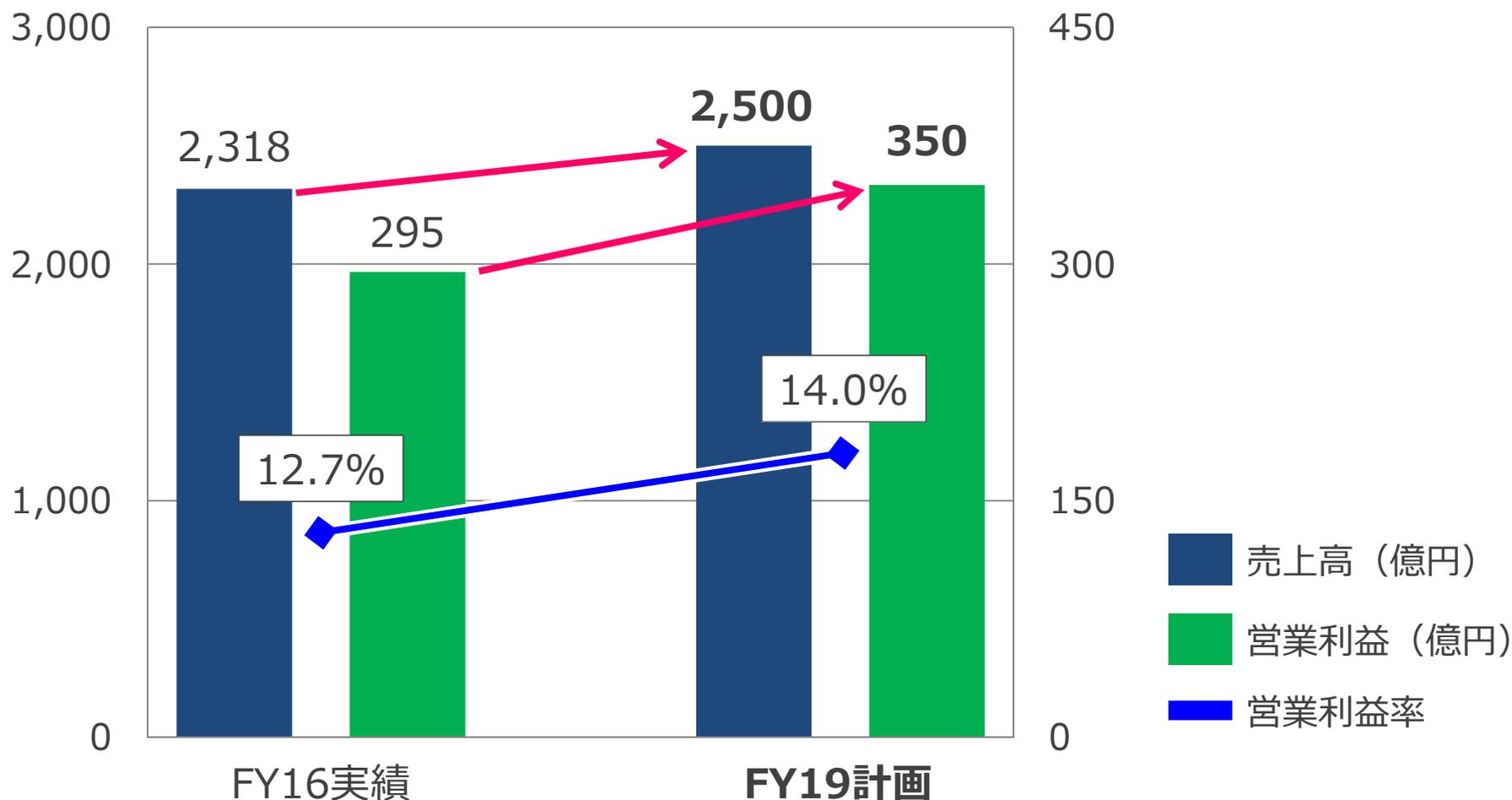
一般産業機器事業

- 同20%増

材料事業

- 同20%増

- 中期経営計画期間を通じて着実に事業拡大を果たすことで、増収増益を確保
- 営業利益率についても改善



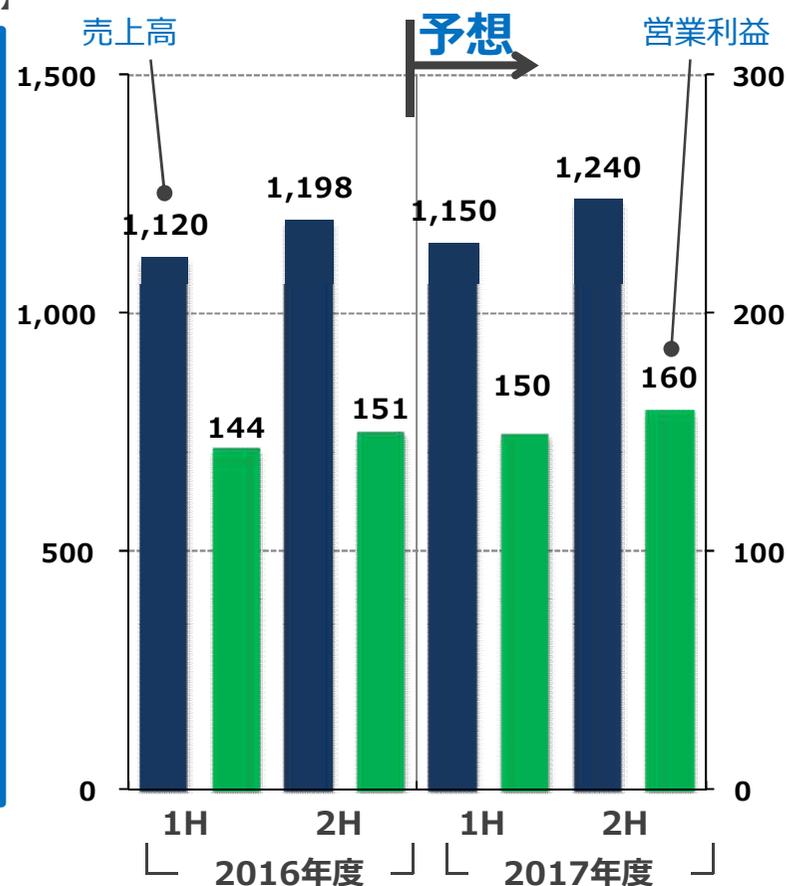
2017年度連結業績予想

- 受注高、売上高ともに、前年度比増加を見込む
- 各利益項目は、前年度を上回る見込み

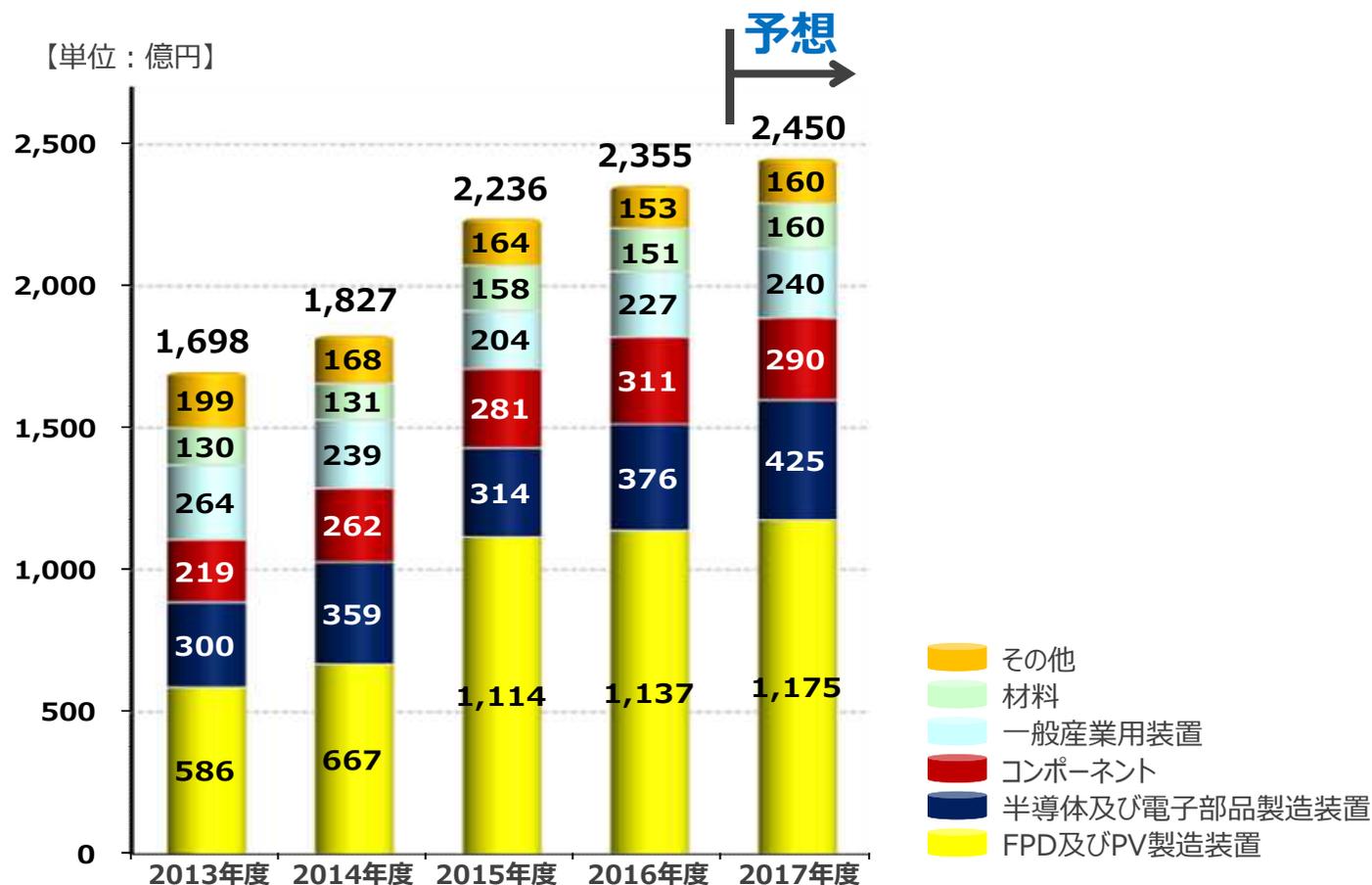
【単位：億円】

	2016年度 実績	2017年度予想		
		2Q (累計)	通期	前年度比
受注高	2,355	1,400	2,450	95 +4%
期末受注残高	1,063	1,313	1,123	
売上高	2,318	1,150	2,390	72 +3%
営業利益	295	150	310	15 +5%
率	12.7%	13.0%	13.0%	
経常利益	297	150	310	13 +4%
率	12.8%	13.0%	13.0%	
親会社株主に帰属 する当期純利益	245	115	255	10 +4%
率	10.6%	10.0%	10.7%	

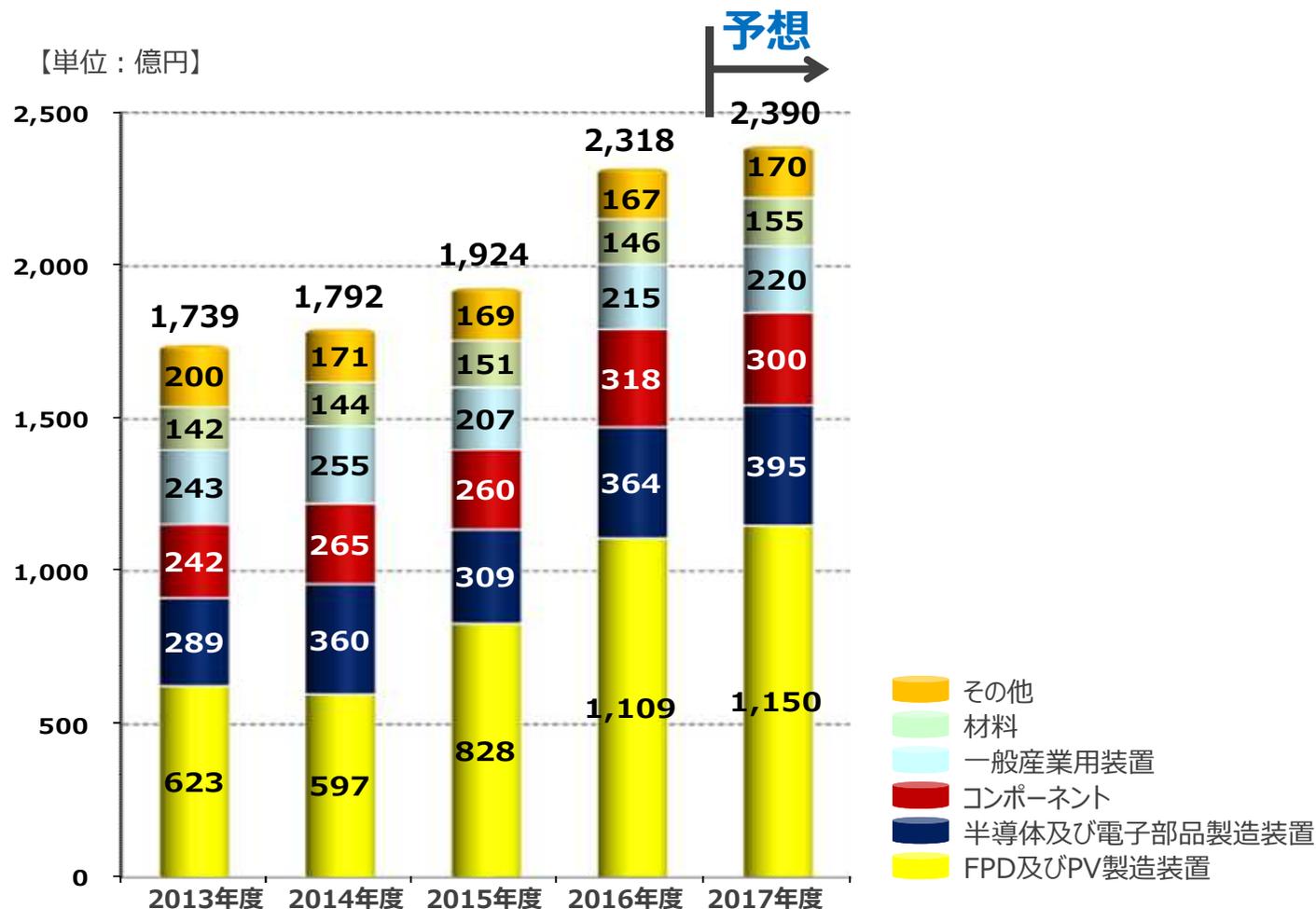
売上高と営業利益の推移（半期毎）



- FPD・PV製造装置は、OLED投資に加え、大型TV向けLCD投資も継続することから、前年度並みの受注を見込む
- 半導体・電子部品製造装置は、NAND・DRAM向け投資の継続と次世代不揮発性メモリ向け投資の拡大等を見込む

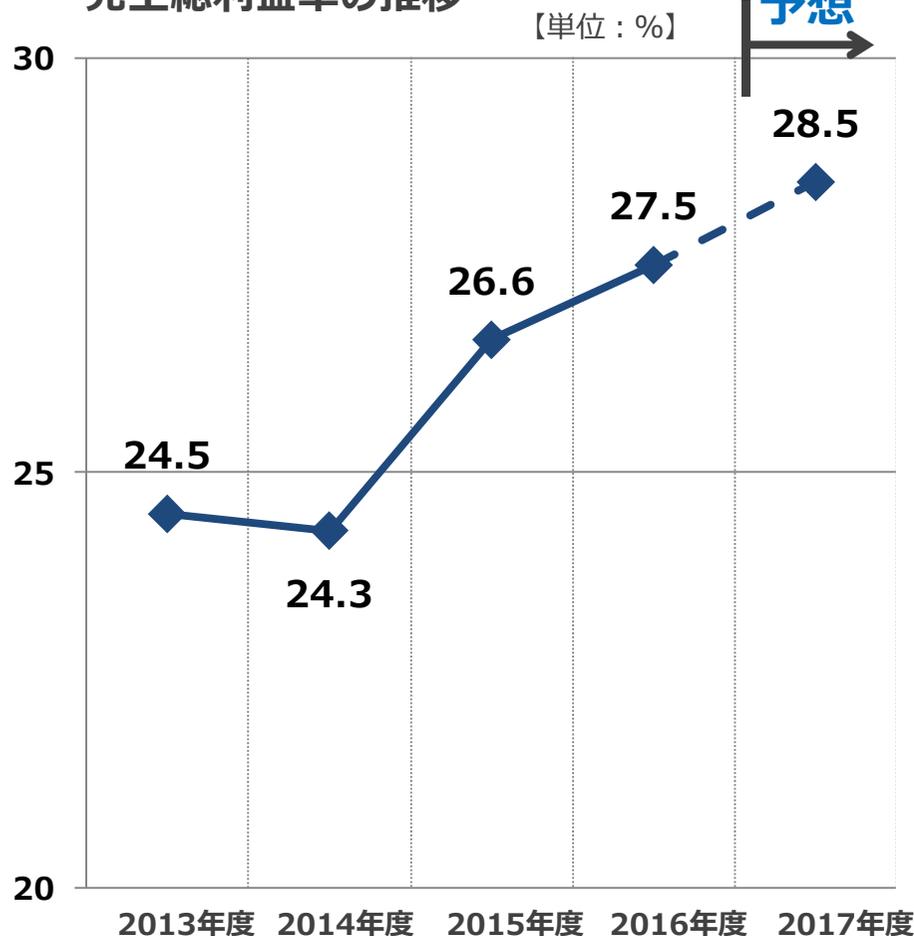


- FPD・PV製造装置や半導体・電子部品製造装置を中心に、概ね各品目で前年度比増加の見込み

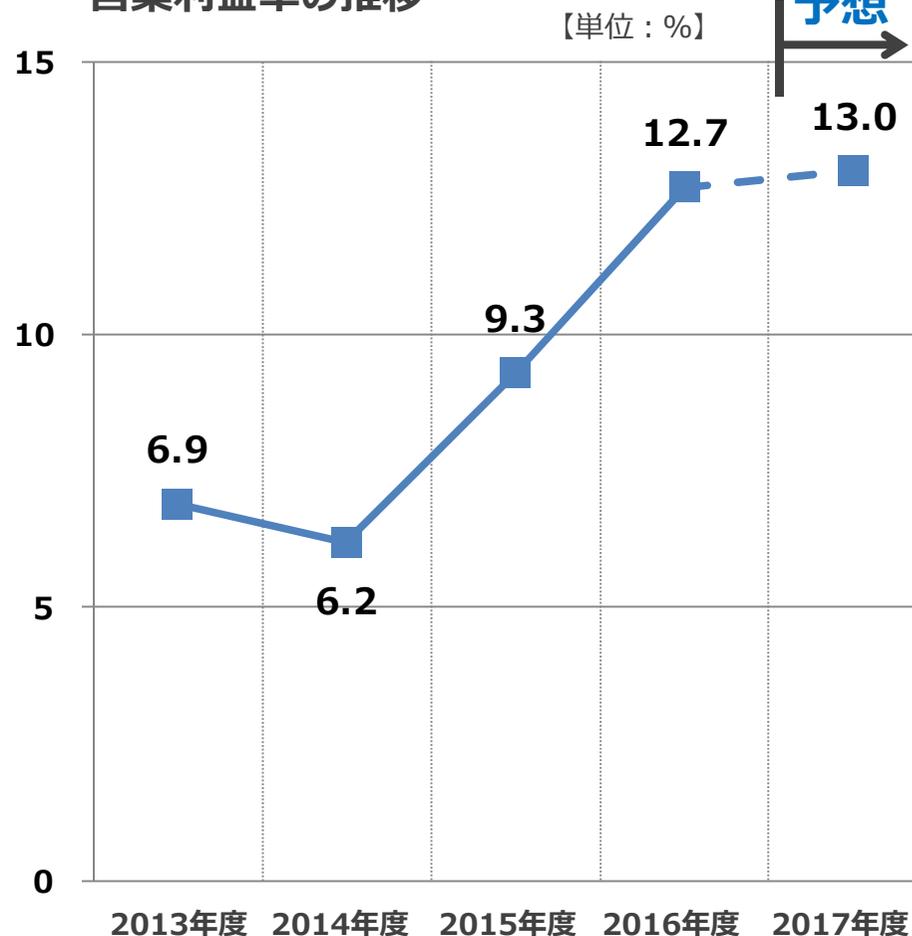


- OLEDなど将来に向けた開発要素の高い装置の売上比重が増加するが、コストダウン等の取組みや、半導体・電子部品製造装置の売上増加により、利益率は前年を上回る計画

売上総利益率の推移



営業利益率の推移



2017年度連結業績予想 (設備投資・研究開発費の推移)

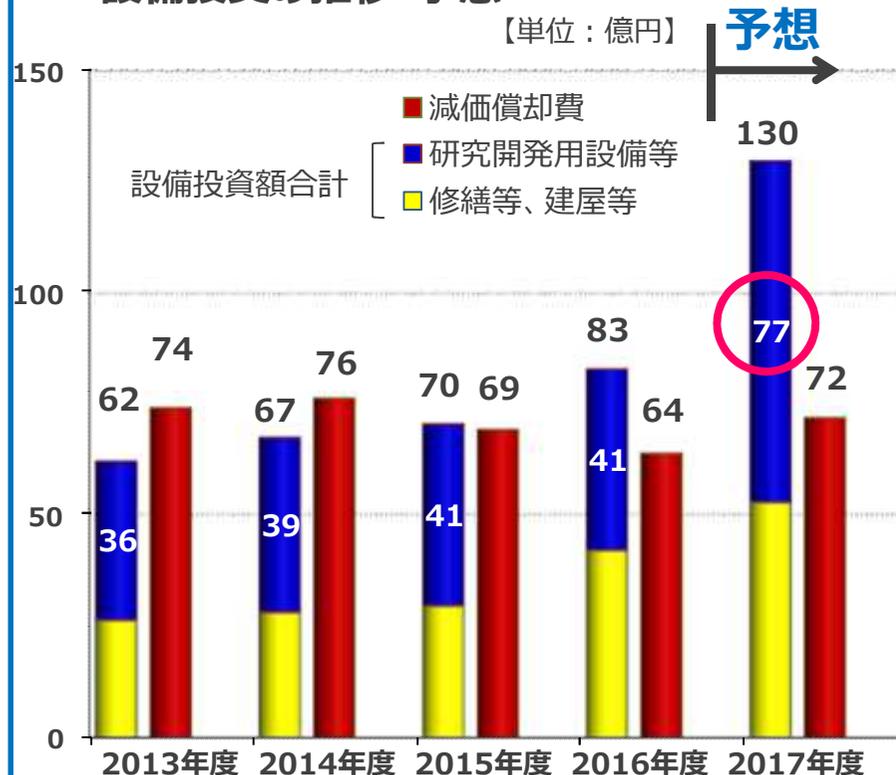
2016年度
連結業績概要

前中期経営計画

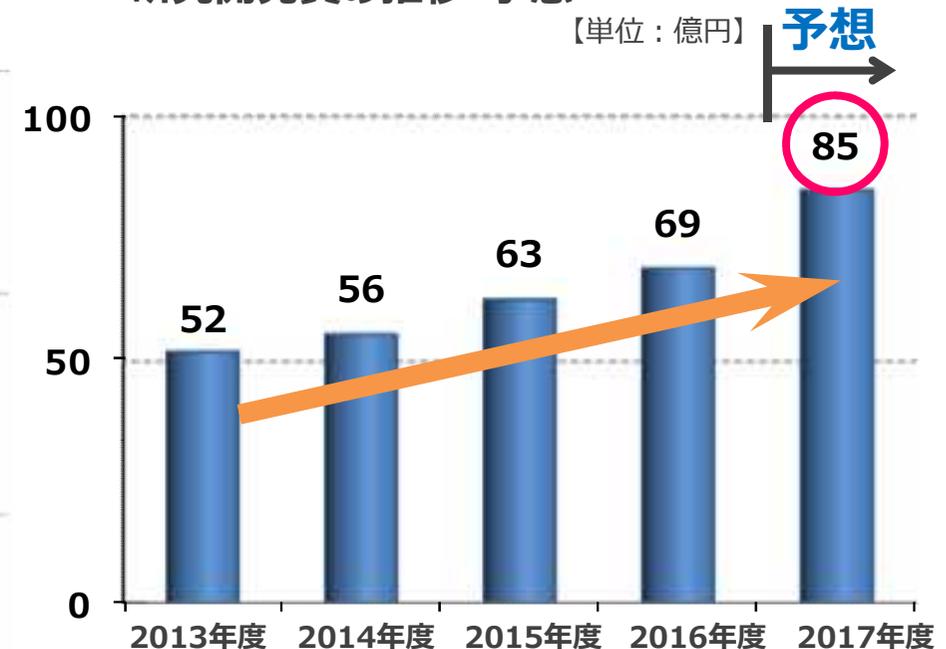
新中期経営計画

- 研究開発投資（研究開発用設備投資＋研究開発費）は、継続的に増加
- OLEDや次世代不揮発性メモリなどへの取組みに加え、将来的な成長につながる開発も積極化

設備投資の推移・予想



研究開発費の推移・予想



2017年度連結業績予想 (期末配当)

2016年度
連結業績概要

前中期経営計画

新中期経営計画

- 配当金は、財務基盤の状況や各年度の連結業績及び配当性向等を総合的に勘案し、実施する方針

→ 2017年度の期末配当予想は、2016年度比10円増額の60円

	2015年度 実績	2016年度 予定	2017年度 予想	(2016年度比)
1株当たり 配当金	30円	50円	60円	10円増加

真空テクノロジーで
「つくる」をつくる、アルバック
ULVAC

本日は
ありがとうございました